

事例発表②

「川口メディアセブンにおける取組」

講師：メディアセブン

センター長 佐藤 大祐

1 メディアセブンとは

川口市立中央図書館に付随する社会教育施設であり、視聴覚ブースの進化系としてビジネススペースを兼ねて2006年6月に設立した。地域のデジタル情報格差解消も目的の一つとしている。

設立初期の3年はメディアセブンの企画チームが運営していた。その後指定管理体制へ移行した。

2 メディアセブンでの活動

施設貸出と主催事業を行っている。貸出施設には、パソコンやプリンターを備えたパソコン席、パソコン講座や読み聞かせの会などを開催できる貸部屋、音声や映像の収録・編集ができる録音スタジオ・編集スタジオもある。非営利の活動に限り施設を利用することができる。最近では自主制作アニメやラジオ放送の練習、地域の写真展の準備などにも活用されている。

主催事業には、まずワークショップがある。施設利用者との協働や育成に力を入れ、市民がお互いに教え合う関係を重視している。ワークショップにはボランティアが参加し、同じ市民同士で活動することもある。市民にインタビューするドキュメンタリー映画制作のワークショップでは、インタビュアーにも市民が参加している。また、開館10周年を記念して近隣小学校へアンケートを配布し、回答を参考にしてワークショップのテーマを選ぶこともある。

また、長期企画も実施している。東日本大震災時の記憶と印象をインタビューして蓄積し、Webサイトで公開している。

そのほかにトークイベントを開催し、図書館と協働してゲストのおすすめ本を展示貸出している。

図書館との協働事業には、図書館に所蔵することを前提とした製本講座や、選書に挑戦してその結果を展示するなどの事業もある。

3 今後の課題

実施している事業には、参加人数や利用件数では測れない学びがある。数字に表現することが難しいため、どのように成果を示し展開していくかが今後の課題となっている。



▲事例発表②